

石橋PTAだより

第一〇六号

発行所
栃木県立石橋高等学校
P T A 広報委員会
(下野市石橋845)
TEL 0285(53)2517
印刷所
(株)松井ピ・テ・オ・印刷



「石橋高校」

P T A 会長 永山 伸一

いせひでこさんという画家の作品で『ルリユールおじさん』という美しい絵本があります。舞台はパリ。5、6歳くらいでしょうか、植物好きの女の子ソフィーの大事な植物図鑑がこわれてしまいました。あんまり使いすぎたせいか、表紙が外れてばらばらです。ソフィーは街中を走り回り、本を直してくれる人を探します。—そんなに大事な本なら、ルリユールのところに行つてごらん—街角で本やカレンダーを売っていたおばさんが教えてくれました。

ルリユールは英語ではブックバインダリー、日本では見かけませんが、本の装丁職人です。裁断から表紙づくり、最後に背表紙に金箔でタイトルを打つところまで、六〇工程の手作業を一人でこなします。—本には大事な知識や物語や人生や歴史がいっぱい詰まっている。それらを忘れないように、未来に向かって伝えてゆくのルリユールの仕事なんだ。名を残さなくてもいい、いい手を持って—そう教わりながらルリユールおじさんは、その父親から製本の技術を受け継ぎました。

ばらばらの植物図鑑はおじさんの手にかかり、見事な装丁の本に生まれ変わりました。ARRES DE SOPHIE—ソフィーの木たち—と金文字のタイトルが輝いていました。最後のページでは、大人になったソフィーが図鑑を抱え、大好きなアカシアの古木の前に、ひとりたたずんでいます。—おじさんのつくってくれた本は、二度とこわれることはなかった。そして私は、植物学の研究者になった—

一般に現代では本はその内容が大事で、装丁は二の次に思われています。しかしその人にとっての一冊が、手にする重み、表紙の感触、そして思い出を含め、その内容と同じくらい大事なものであることを教えてくれた一冊でした。日本中に高等学校は何千校あるのでしょうか。どこでもみなさんと同じ高校生が三年間の青春をすごしたはずですが、でも皆さんの高校生活も、私たち保護者の記憶も、他のどこでもない—この特別な「石橋高校」という表紙の中にだけ生き続けます。皆さんの輝かしい未来と、ご活躍をお祈りします。卒業おめでとう。



「世のため 人のため」

校長 江部 信夫

今から三年前の平成23年3月11日、高校入試合格発表の日、未曾有の東日本大震災が発生しました。当時、災害の最前線には、使命感を胸に体を張る職業人が大勢いました。自衛隊員、警察官、消防隊員が真っ先に被災地に入り、多くの人を救い出しました。また、自治体の職員、海上保安官、医師や看護師、福祉施設職員、教師、トラック運転手、コンビニ店長などの皆さんが懸命の復旧作業に取り組んでいました。外国からも多くの救援隊を現地に送り込んでくれました。彼らは、もちろんプロとして救援活動、復旧活動等に取り組んでいるわけですが、それ以上に人を助けたい、人を支えたいという人間の本性から取り組んでいたことも間違いありません。

神奈川県にあるチョーク製造会社日本理化学工業は、長年積極的に知的障害者を受け入れています。会長の大山泰弘氏は、「人間が生きていく上で最も大切なことは、『人の役に立つことこそ、幸せ』この一言に尽きます。人は働くことによって、人にほめられ、人の役に立ち、人から必要とされるからこそ、生きる喜びを感じる事ができるのです」と強い信念を持っています。大山氏にこのことを教えてくれたのは、単調な仕事であっ

ても全身全霊で工場で働く知的障害者でした。

今年1月に、世界中を驚かすニュースが入ってきました。理化学研究所の小保方晴子さんをリーダーとする研究ユニットが、新しい万能細胞（STAP細胞）の作製に成功したとの報道でした。小保方さんは、学生時代、指導教官に「再生医療の研究をしたい。子宮を病気でなくし、子供を産めなくなった女性を救いたい」と困っている人の役に立ちたいと語っています。

人間何のために働くかと言えば、自分の成長のため、そして何かに貢献するためです。世のため、人のためでありつつ、結局はそれは自分のためでもあります。

高校時代は、将来どのような生きていくかを学校生活のあらゆる面で考える大切な時期です。お子さんには、「職業講話」、「大学・企業・研究所訪問」、「短期インターンシップ」等のキャリア教育を通して自らの人生の青写真をつくり、将来像の実現に向かってたゆまぬ努力を重ねてくれることを期待するとともに、将来どんな職業についても「世のため 人のため」の気概を持って働くことを肝に銘じていただきたいと強く願っています。

三学年担任より

三年一組 担任 石戸 直美



ご卒業おめでとうございます。自身、三年前に着任し何もわからない中で石橋高校での生活をスタートさせました。数多くの壁にもぶつかり、迷いながらも三年間共に過ごさせていただいたこと、心から感謝しております。

さて、お子様たちは石高での三年間を滑走路として、今後はそれぞれの空に向かって飛び立っていきます。これまで保護者の皆様をはじめ、たくさんあった誘導灯が少しずつ減ってゆき、どの様な天候であろうとも自分の力で飛び続けてゆかなければならなくなります。危険信号（ばかり？）を発してきた一人として、それぞれが自己を良く見つめ、大空高く羽ばたいてゆくことを心より祈念致します。

三年二組担任 塩野 友佳



卒業おめでとう。三年前の三月十一日、県立学校合格発表そして東日本大震災。合格の喜びに沸いた学校は、その日以来休校が続きました。

不安の残る中迎えた四月、石橋高校入学式。新しい学校での担任に、生徒の皆さん以上に緊張していたことを思い

出します。あれから三年、初めて尽くしの日々をただ夢中で走ってきました。今は、皆さんに迷惑をかけることも多くあったことを申し訳なく思うと同時に、皆さんからたくさんのお礼の想いを頂けたことに感謝しています。これからも、その素直で明るい気持ちを大切に、さらさらとした限りない可能性を伸ばし、素敵な人生を歩んでいって下さい。

三年三組 担任 阿部 裕子



ご卒業おめでとうございます。明るく素直で思いやりあふれる生徒さんたちとの日々を振り返って「うん。よかったなあ。」と思えるワタシは、とても幸せです。『ありがとう。』

自分の目標に向かって、懸命に努力し、日々成長し続ける生徒さんたちの姿を見て「イカン、がんばらねば」と励まされたワタシは、成長し続けることができました。これから『自分で選んでいく自分の人生』がスタートします。「ツライなあ」とか「イヤだなあ」ということがあるかもしれませんが、それが成長のチャンスです。『みなさんなら大丈夫。』

自分に自信をもって、自分らしく明るく楽しく過ごしてください。



三年四組 担任 山崎 早苗
ご卒業おめでとうございます。

石高で三回目の担任として、三年前に新しい出会いが始まりました。この三年間で大きく成長した生徒たちを見てみると、将来が頼もしく思います。クラスの団結力を発揮した球技大会・合唱コンクール・学校祭。とくに最優秀賞を目指して練習した合唱コンクールは、どのクラスも迫力がありました。受験に向かって勉強している真剣な姿。ひとつひとつが鮮明に、私の心の中に残っています。この出会いを大切にこれからも見守っていきたいと思っています。数年後に立派に成長した生徒たちにあえる日を楽しみにしています。

最後になりましたが、保護者の皆様には、本校における教育活動に對しまして、ご理解とご協力を頂き、心からお礼申し上げます。



三年五組 担任 駒場 浩英
お子様のご卒業、誠にありがとうございます。

合格発表当日の東日本大震災。この石高での三年間は、お子様たちにとっても決して平坦ではなく、様々な壁にぶつかり悩むことも多々あったことと思います。しかし、学

業と部活動、様々な学校行事との両立を通し、仲間との連帯感や団結力、そして共に限界にチャレンジする強い心を培い、現在も果敢に挑戦しております。そのような大人への一歩を踏み出したお子様たちの大切な時に関わられたことに深く感謝しております。

震災からの復興と同様、お子様がこれからさらに逞しく成長し、社会で活躍していくことを心から願っております。ありがとうございます。



三年六組 担任
上武 保夫

校内マラソン大会

平成25年11月6日



校内合唱コンクール

平成25年7月11日 (於 栃木県総合文化センター)

石高祭

平成25年8月30・31日

テーマ『石高祭いつやるの? 今でしょ!!』
『文化祭だって闘心ハイスクール』



P T A 活動

全国高P連山口大会に参加して

教頭 萩原 功夫

8月22日、山口県において、『夢から志へ』をテーマとして開催されました。本校からは、永山伸一会長と私が参加致しました。本年は、例年と違い一日開催でしたので、少少きつい日程でした。幕末から明治維新にかけての多数の志士を輩出した土地柄もあり、『志』をテーマに選んだことは当然としても、本校の校訓『爾の立てるところを深く掘れ』や、本校で推進するキャリア教育の目的と軌を一にするものであり、分科会や講演会での話を興味深く拝聴致しました。生徒一人一人の夢を高い志へと昇華できるよう、学校とPTAが更に連携を深めることが大切であることを、改めて認識する貴重な機会を得ることができました。

PTA研修旅行に参加して

研修委員長 楠 幸子

9月20日（金）、今年の研修旅行は東北大学を見学、青葉城跡を巡り、仙台駅にて昼食と買い物という内容でした。東北大学では、石高卒業生で工学部在学中のお2人から大学施設の説明やご自身の学生生活についてお話を伺う事ができ、参加された皆さんから参考になったと大好評でした。



球技大会に参加して

国分寺支部長 近藤美由紀

天気にも恵まれた球技大会、国分寺支部は十名の方に参加していただきました。同じ支部でも、なかなか顔を合わせることがありません。グラウンドゴルフのプレイ中や休憩では、お茶を飲みながら会話が弾みました。練習した甲斐があり、優勝することができました。半日という短い時間でしたが、有意義な時間を過ごす事が出来ました。



栃高P連PTAスクールに参加して

PTA副会長 渡辺 理江

第53回栃高P連PTAスクールの10月24日、25日に日光市にて開催され、本校より萩原教頭先生と本部役員の3名が参加いたしました。

一日目は足工大教授小林敏幸氏による講演「心身の成長における睡眠習慣の重要性」を拝聴し、脳と体を休め、認知機能を高めるには、規則正しい生活と質の良い睡眠が大切との内容のお話でした。

二日目は高校教育とPTAというテーマで、栃木高校による発表があり、学校、生徒、保護者が相互理解を深め、情

マラソン大会を手伝って

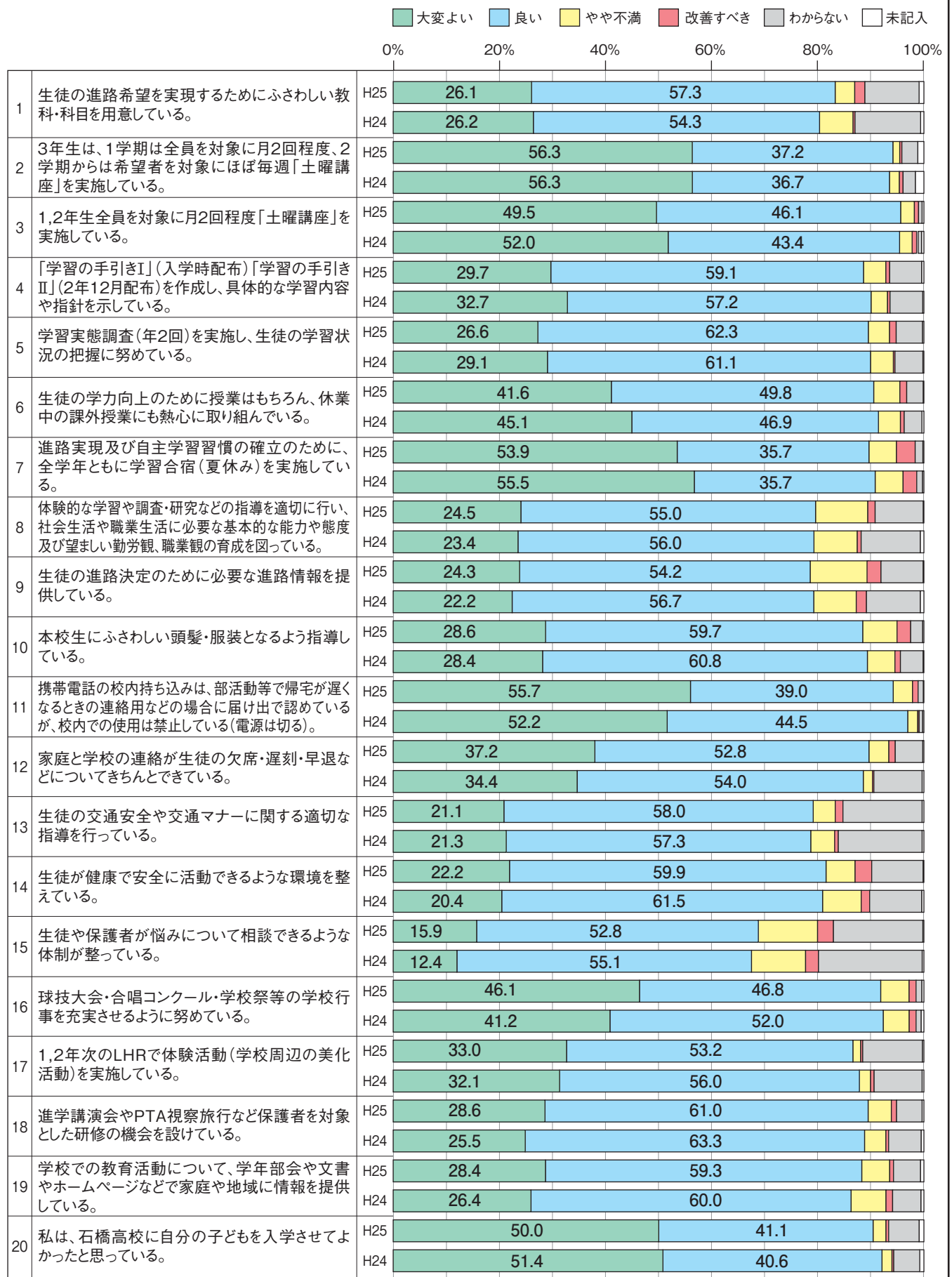
石橋支部長 若林 恵

石橋支部にとつて最大のイベント、マラソン大会が秋晴れの下開催されました。毎年ゴールした生徒達が食べる豚汁は、とても大きな鍋三つに約八百食分を作ります。普段では考えられない量なので、味つけに戸惑ってしまいますが、生徒の皆さんや先生方からの「美味しかった」という声を聞くと、早朝から調理した甲斐がありました。今年も保護者の方々の協力のお陰で、ケガ人や具合の悪くなる生徒を出す事なく無事に終了できて良かったと思います。



報を共有化し、より良い信頼関係を築くための取り組みなどを協議しました。とても参考になりました。有意義な時間でした。

平成25年度 学校評価 保護者アンケート結果（1・2・3学年） 回答数616（回収率86.3%） 在籍714名



新年度学年に向けて

生徒指導部から

生徒指導部長 多賀谷 弘



中学一年生の時、理科の授業で実験をやった。いくつかの班に分かれ、電流

だったか電圧だったかを計測する実験だった。私は班長だったので、その班の実験をリードする役割を担っていた。

各班とも実験が終了し、実験結果の発表になった。どの班も実験の前に予測した数値に近い実験結果だった。しかし、私達の班だけが予測とはまるで違う数値だった。

これはまずい。班長としての責任を感じた。きつと実験の間違いを怒られるなと思った。「実験を間違えました」と私は先生に言った。すると先生は「多賀谷、実験に間違いはないんだ。もし、予測と違う結果が出たとすれば、なぜ予測と違う結果だったかを調べるのが科学的な考え方だ」として、「何度調べ直しても予測と違う結果が出たとすれば、それは予測が間違いで自分たちが正しいのかもしれないじゃないか」と続けた。

なるほど、と思った。みんなと違うことが必ずしも間違いではない。もしかすると、みんなが間違いで自分が正しいこともある。つまりそういうことだ。

うことだ。

あれから四十数年の時間が流れた。もうずいぶん昔の話だが、今もその時のことが心のどこかにプログラミングされていて、私の判断や行動を支配する重要な要素の一つになっている。

かつて英国の首相だったサッチャー女史は、他のほとんど全てのヨーロッパ諸国と政治的な意見が対立した時に「大陸は孤立した」と言ったのをふと思い出した。彼女は『鉄の女』と呼ばれていた。

学習指導部から

学習指導部長 小林 保夫



近頃よく言われることに、生徒達が自ら学習に取り組まなくなったというこ

とです。大学受験を考えた授業が多い高校では、ありがちなことです。そこで、視点を变えて、受験勉強を考えてみたいと思います。それは、『受験勉強』は教養を高めるとともに、積極的に物事に対処できる人間を育てるということです。例えば、本気で『受験勉強』に取り組めば、勉強以外のいろいろなことをしたいと考える怠惰な自分に負けじと頑張り抜き、忍耐力が身に付きます。『受験勉強』を通じ

て、多くの情報を吸収し、またそれを処理する能力や、学習計画に従って学習すること、自己を厳しく律する管理能力も養われます。生きていく上で役に立つ能力を、知らず知らずに身につけているのです。一見無駄なことをやっているようで、『受験勉強』は、現在の自分を人間的に大きく成長させてくれると考えてみてはどうでしょうか。

新年度学年に向けて

進路指導部 小林 卓



学習指導要領の現行課程では、平成26年度大学入試もいよいよ

よ大詰めという段階に入った。現2年生が受験する27年度入試では数学と理科が、現1年生が受験する28年度入試からは全科目が、新学習指導要領の下で実施される。新課程と従来の教育課程（旧課程）との違いの一つに、全体的な学習量の増加が挙げられる。新課程では、特にグローバル社会で活躍できるような人材を育成していくため、理数教育、言語活動に力を入れることとしている。

27年度入試におけるセンター試験で変更になるのは数学と理科のみであるが、前述したことを踏まえ、数学と理科は出題科目や内容等が、旧課程と比較し大きく変更され

る。特に理科については、センター試験段階で、高校理科の全範囲が出題範囲となるので、文系理系を問わず、その負担は大きくなったと言える。志望大学の指定を確認し、4つの受験パターンからいずれか1つを選び、今年10月のセンター出願時までは決断、申請しなくてはならないので、学習の早期完成が不可欠になってくる。

新課程の英語では、「聞く」「話す」「読む」「書く」の4つの技能をバランスよく学び、相互に活用する力が求められている。この4技能統合の力を測る問題は、旧課程でのセンター試験においても、先取りする形で出題されており、特に、限られた時間の中で、速く正確に読むこと（速読＋精読）が同時に求められている。28年度入試以降は、こうした力を試される問題が増えていくと考えられ、そのことを意識した学習が必要になってくる。

課程の移行に伴い、センター試験をはじめとする、大学入試の制度や内容も大きく変動しているが、大切なことは、受験に関する正確な情報の収集とどんな問題にも対応できるように幅広く骨太な学力の養成であると思う。来るべき大学入試に対し、徒に不安になることなく、正しく恐れ、備えてもらいたい。

編集後記

寒い日が続きますが、近頃の紙面では臘梅が香り、福寿草が春を告げるとあります。

この訪れと共に「石高PTAだより」第106号を無事発行することができました事に、広報委員一同、心より感謝申し上げます。

さて、何分にも不慣れた私達ではありますが、編集作業の一つである写真選びでは、家庭とは違った学校行事での生徒の生き生きとした一面が沢山見られた事は、広報委員としての役得を感じながらも、親として安心しました。

最後になりましたが、発行にあたり、原稿依頼にご協力くださいました皆様ありがとうございました。

編集委員

上野 康江 金澤有美子
小滝 文子 山崎 裕子
栗原 徹 古口 享子
小林 好美 小倉 貴子

